

議事録

協議会の名称	平成２７年度山口市観光産業活性化委員会
開催日時	平成２７年１１月２０日（金曜日）１４：００～１５：３５
開催場所	山口総合支所 第１０・１１会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	徳地商工会 会長 桑原 祥次 西日本旅客鉄道株式会社山口地域鉄道部 部長 隅中 英明 （一社）日本旅行業協会中四国支部山口地区委員会 委員長 上田 英夫 （一財）山口観光コンベンション協会 理事長 大庭 達敏 山口県央商工会 会長 富田 正朗 （公社）山口県バス協会 会員 兼重 慎一郎 山口市観光ボランティアガイドの会 会長 末富 延幸 山口市自治会連合会 会長 清水 力 ※代理 副会長 原田 澄夫 山口商工会議所 副会頭 有吉 政博 湯田温泉配給協同組合 理事長 松田 康義 ※代理 事務局長 吉本 康治 湯田温泉保養所連絡協議会 会長 中澤 和也 湯田温泉料飲社交組合 組合長 堀本 紀代 湯田温泉旅館協同組合 理事長 宮川 力 山口市 市長 渡辺 純忠 ※代理 副市長 吉田 正治 山口市経済産業部 部長 東 洋光
欠席者	山口市物産事業者連絡協議会 会長 津田 末朗 山口大学経済学部観光政策学科 教授 陳 禮俊 山口地区タクシー協会 会長 中野 和人
事務局	（一財）山口観光コンベンション協会 専務理事 鈴木 克彦 山口商工会議所 事務局長 飯田 裕史 湯田温泉配給協同組合/湯田温泉旅館協同組合 事務局長 吉本 康治 山口市経済産業部 村田次長 山口市経済産業部 観光課 藤井課長、藤村主幹、白澤副主幹、河村副主幹、町田主査、伊藤主査
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 <開会> 事務局により開会宣言。 <講演> 山口県商工労働部観光振興課 課長 正司尚義氏による「山口県の観光振興について」と題した講演 <議事> 以下議事に入る。

	<委員長> 委員長挨拶 <委員長> 議事（１）「山口市の観光動態等について」中、「①観光客数の推移」「②来訪者の状況」「③観光客等のながれ」「④山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略・やまぐち地方創生１００プロジェクト」について事務局に説明依頼。 <事務局説明> 資料１「山口市の観光動態等について」について説明 <委員長> 事務局の説明について、質問・意見はあるか。 【質問、意見等なし】 <委員長> 議事（２）「今後の取り組みについて」中、「①デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）」「②明治維新１５０年」について事務局に説明依頼 <事務局説明> 資料２「デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）の概要」、資料２－１「デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）に向けて」、資料３「明治維新１５０年に向けたながれ」、資料４「明治維新１５０年記念事業関連の取り組み」について説明 <委員長> 事務局の説明について、質問・意見等はあるか。 <委員> 観光振興の感覚でみて、山口市は合併して１０周年、旧小郡町と一緒に気になるのが、駅に出たときの観光の景観を感じられない。言葉にするのは難しいが、県外から来た人が山口に来たんだという感覚を感じとれない。山口市としては、どんどん小郡を開発しているが、観光を振興していくための、駅の周辺で写真のバックに入れるものがないと感じる。ＪＲに協力していただけるのであれば、駅を降りた瞬間に「山口に来た」と感じられるようなものを取り入れてほしい。要望とする。 <委員> 現在、国の方針として地方創生ということの中に、インバウンド誘致が大きな柱になっている。今一番多いのが、東京から大阪にかけてのゴールデンルートに集中している。それから地方にインバウンド客を増やすのは非常に至難の技である。例えば、山口県でも台湾が減っている。一昨年は、台湾からのチャーター便が宇部空港にあったが、去年はなかった。今年は、韓国については継続されるので、非常に期待している。最終的に、インバウンド客を増やすには、地方の空港に、山口宇部空港は国際空港ではないのでチャーター便を誘致することが大きなことになる。そこで、地方創生ということで、いわゆるインバウンド客を増やすには、チャーター便に対する国の助成が必要と考える。このような国の助成があるのか、県
--	---

	にお尋ねする。 もう一点は、薩長同盟があるが、薩長土肥で東京で4県の知事が並んだ。なかなか進まないのが実態。これを進めるには、薩長土肥の4県がお互いの地域交流を進めるべき。お互いが知らないということがあると思う。 観光振興だけでなく、文化振興であるとか、スポーツ振興であるとか、教育振興であるとか、4県が地域交流をすれば、全国発信が大きくなると思う。例えば、薩長土肥の4県に旅行する、いろんな大会をする、そうすればお互いの交流が進むのではないかな。 <事務局> チャーター便の補助については、現在認識しているものはない。 <アドバイザー（県）> 薩長同盟について、平成の薩長土肥連合の取り組みの中で、各県相互に行ったり来たりしようということは、重要な取り組みの一つとして考えている。相互に送客していこうという取り組みを、それぞれの県が一生懸命やっていこうということにしている。例えば、県レベルでの薩長土肥連合が形成された翌日のことだが、山口県内の信用金庫と鹿児島中央信用金庫が協定を結んだ。そういったところで、お互いに、例えばお客様の視察旅行という局面等があり、そういう働きかけをしていきたい。金融機関だけではなく、他のいろいろな事業者間同士の連携体制が、県レベルで連合というか形成されているということによって、更に一層加速していこうと期待しているので、県もそういうふうな働きかけをしっかりとしていきたい。 <委員長> 各委員へ発言を促す <委員> 資料1の最終ページ、山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略・やまぐち地方創生100プロジェクトの中に、新たなネットワークとして山口市版DMOを作るとあるが、どんなふうに、どんなスケジュールで進める予定か。 また、マーケティング戦略について、宣伝戦略をどう作っていくのか。特に紙ベースにすると、お金がかかる。むしろ今は、スマホの中で情報発信していくのが効果的と考える。 本日、「アエルヤマグチ」のパンフレットを配っているが、これは4つの商工会議所で進めている地旅コース案内だが、今まではペーパーで作って配布していたが、ネットでこれを基に作成し、コース案内をするというふうに替えることとした。観光地によっては、そこでスマホを使って音声案内をする仕組みを作ったり、さまざまな活用が始まっている様に思うが、宣伝戦略のひとつとしてSNSを使った取り組みが必要なのではないかな。意見とする。 <事務局> スケジュールについては、お示しするものはないが、観光地域づくりということで、マーケティング戦略に関しても、全体的に地域としての戦略をもってターゲットをしぼったり、効果があるような働きかけ、お招きしたときのサービスの提供等、いろんな意味での戦略をた
--	--

てながら、その対象にあうような情報発信であったり、サービスの提供等ということの体制を整える連携をとるということが、DMO的な意識だと考える。新たな組織を立ち上げるか、あるいはこの委員会を連携強化して機能アップしていくとか、いろんな形の進め方があると思う。今は研究の段階で、できるだけ早めに動いていきたい。

<委員長>

I T等を使ったマーケティングや広報宣伝も、よろしく願いたい。

<委員>

一つ提案を。二次交通のあり方について、二次交通でお金をかけないやり方は、路線バスを使うことが一番。例えば、瑠璃光寺や常栄寺に行こうと思ったときに、観光客の目線からすると、どこのバス停でどこの路線に乗ったらいいかわからない。湯田温泉にバスが着いたときに、これは瑠璃光寺の近くを通るとか、常栄寺の近くに着くという案内があれば、それを目印に乗っていく。そうすると、車内で「ここで降りてください」という案内があり、わかる。実際、今バスに乗って思うのが、地元に住んでいる人は路線図を見てわかるが、観光客からの目線からするとわからない。山口県の場合は、マイカーが当たり前になっているが、路線バスを使いながら、観光客の目線で、これからいろいろ確認をしてみたい。二次交通で一番簡単にできるのは路線バスを使うこと。観光客の方に路線バスに乗ってもらうことを考えていけば、あえて投資もいらないし、バス会社の方にとっても乗車率が上がり、お互いWIN-WINの関係になるのでは。

是非みなさんも、路線バスをたまには使ってみてはいいと思う。

<委員>

歴史のまちであり、教育のまちであるが、地元の人が地元のことをよく知っていないのではないか。山口にはこういうところがあるという程度しかわからない。こういう機会に初めて出たが、地元のいいところを皆さんに教えていただき、地元に戻していきたい。

<委員>

観光客の対応をするなかで、「バスでどのくらいかかるか」、「角島大橋までどのくらいかかるか」とフロントで聞かれたら、すぐ私のところに聞きにくる。観光の関連のホテル業に従事しているからには、特にフロントは、何歳であっても勉強し、応えることができるようにしておかないといけない。「山口からだったらどこでも1時間でいける」と宣伝しているが、もう一度、足元を見つめ直してみたい。

角島大橋、川棚、棚田、錦川のトロッコ列車等に行った。まずは自分で知って、お客様にご案内できるようにならないといけないのではと考えている。そこがスタートではないかと考えるので、再度、取り組んでいきたい。

<委員>

まずは地元から意識改革をしなければ、観光客に尋ねられても答えられない。先日もあるテレビ局で、ローカル列車の旅をやっていた。無作為に降りて、地元の方に「いいところがあるかと」たずねても、「何もない」と答え、それが流れていた。見た人は、二度とその町に

は降りたくないと思うのでは。まずは地元の方の意識改革。市報にいろいろな情報を載せるときには、事前に、3年後には、5年後には、と繰り返しお知らせをするのが、やさしい市政ではないか。

<委員>

今盛んに、地方創生という言葉聞くが、地方創生と地域との関係、地域にも地域創生があってしかりだろうと思っている。地域を知らなくて何が話せるか。全国で地域おこし協力隊が活動しており、今、徳地でも地域おこし協力隊が活動しているが、その方との交流を考えている。徳地には和紙があり、どのように活かすかということで色々考えているが、地域おこしについて話し合った。大庭会長が、先日表彰を受けられたが、その表彰の紙は徳地和紙だった。大変ありがたかった。もう一度復活できないかと考える。東京と山口を比べても話しにならない。山口県の田舎をどのようにPRするかが原点だろうと考える。地域の文化をもう一度見直しては、と思う。

<委員>

DCで商品づくりが必要と思うが、二次アクセスが入った商品づくりとか、山口でなければ体験できない体験型のもの等が必要ではないか。また、山口観光検定を行政の指導でやってもらうのも良いのではないか。

「瑞風」は、残念ながら山口市は通過となるが、下関が発着となる。車内で美味しいものを食べて頂き、景色を見ていただくというのが「瑞風」の主な考え。H29年のDCで入るSLについては、5両編成で、一番後ろにマイテ39という明治大正時代のグリーン車がつく。皆さん心配されているD51は、C56の置きかえとっていただいて良い。主体はC57の1号機で運転し、できないときにD51を運転したり重連したりする予定。

<委員>

インバウンドの話があったと思うが、40年ぶりに日本人の出国者数を外国人の入国者数が上回ったということで、山口も、10年先は外国人がかなり増えてくると思う。先日も、山口県の村岡知事とアジアナ航空の本社に行った。定期チャーター便を48便運行しているが、9割が韓国人用に席を取っている。日本人用は12席しかない。いかに韓国人が旅行旺盛だということで、宣伝ではあるが、JTBで定期チャーター便を飛ばしているので、日本人も負けずに行っていただかないと宇部空港の国際化が遠のくので、搭乗していただきたい。

<委員>

10月1日にバスのダイヤ改正を行った。今までは、新山口から山口市内まで来るのに20分間隔であったが、午前中は15分間隔、午後は20分間隔ということで運行している。より観光客の方に、というところもあったが、現在、新山口駅の工事の関係で、バス乗り場がかなり離れたところにあるということで、お年寄りや体の不自由な方等、バス離れがすすんだのも事実。いち早く駅の工事が完成することを願う。

世界ジャンボリーの時に、瑠璃光寺がロコミで外国人に広まって、たくさんの外国人が市内

に遊びに出られた。そのほとんどが、新幹線口からバスに乗っていただいた。帰ってこられた方が口々に「瑠璃光寺は素晴らしかった」とおっしゃっていたので、かなりの方の印象に残ったのではないかと思います。瑠璃光寺は、自信を持っておすすめできる観光地であると再認識した。

瑠璃光寺に一番近いバス停が県庁前で、降りて歩いて行く方法が一番、バスの便が多い。気づかれてない方も多いが、県庁前のバス停の表示の下に「(瑠璃光寺)」と表示されているので、ご理解いただければと思う。

<委員>

瑠璃光寺は、最近、観光客が多くなった。少し気になるのが、瑠璃光寺関係を見られて帰られる際に、「次はどこに行ったらいいでしょうか？」と聞かれる。ほとんどの方がマイカーと自転車で来られ、マイカーの方も「次の場所に行くには、どういう道を通って行ったらいいでしょうか？」と。つまり道を聞かれるということ。それから、もうひとつは「この辺りで山口でなければ食べられないような美味しいものがある食堂はどこにありますか？」と聞かれる。その時には少し答えにつまる。ということが起こっているので、伝えておく。

<委員長>

他にないようであれば、本日の委員会を終了する。

15時40分閉会